

令和3年度

学都仙台単位互換ネットワーク
(特別聴講学生)募集要項



聖和学園短期大学

〒981-3213

仙台市泉区南中山五丁目5番2号

聖和学園短期大学 教務課

TEL 376-8252

FAX 376-3155

出願手続きについて

1. 出願期間

次の期間迄に出願票を所属大学経由により本学教務課に提出してください。
なお、所定の出願用紙は、所属大学に請求してください。

前期 4月 8日(木) まで

後期 9月13日(月) まで

2. 授業時間

1時限	8 : 50 ~ 10 : 20
2時限	10 : 30 ~ 12 : 00
3時限	12 : 40 ~ 14 : 10
4時限	14 : 20 ~ 15 : 50
5時限	16 : 00 ~ 17 : 30

3. 授業期間

前期授業期間 4月 8日(木) ~ 8月 6日(金)

後期授業期間 9月13日(月) ~ 1月26日(水)

4. 受入許可等

所属大学からの依頼による受入れ可否については、受入れ大学へ通知します。
(本人には直接通知しません)

なお、受入学生数を越える応募者がある場合、抽選により決定します。

5. 授業料

無料とします。授業科目によってテキストおよび教材費が必要な場合は、各自の負担となります。

6. 施設利用

本学学生に準じます。

7. その他

(1)自動車による通学は、学生課に事前に相談してください。

(2)心身の障害に関して合理的配慮を要請する場合は、事前に相談してください。

令和3年度 学都仙台単位互換ネットワーク 提供科目一覧

No	学科名	対象 学年	提供科目名	カテゴリー 分類	単位数	担当教員	開講 時期	曜日 時限
1	キャリア開発総合学科	1～2年	ファッションデザイン	10	2	金澤 千晶	前期	月曜日・4時限
2	キャリア開発総合学科	1～2年	栄養学A	10	2	梅津 裕子	前期	水曜日・2時限
3	キャリア開発総合学科	1～2年	ホスピタリティ概論	10	2	今野 則幸	前期	月曜日・5時限
4	キャリア開発総合学科	1～2年	公務員試験対策講座V(文章理解・文学)	7	1	関根 俊二	前期	木曜日・5時限
5	キャリア開発総合学科	1～2年	新聞を読む	7	2	川辺 博	後期	木曜日・5時限
6	全学科	1～2年	ライフデザイン総合	5	2	堀・君島・東海林	後期	木曜日・5時限

上記科目は全て対面授業での実施を予定しております。

科目名	ファッションデザイン				担当者	金澤千晶						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。											
専門的 学習成果	①	ファッションデザインの歴史・過程を知り、各年代のデザイナーを知ることができる。										
	②	洋服のデザイン（シルエット・ディテール）の名称を知ることができる。										
	③	新たなデザインの発想をする力を身に付け、提案することができる。										
	④	フォーマルの場に着用する正しい服装を知ることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたフォーマルの場に着用する服装の学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果④に関連）										
	(2)	ファッションのデザインを発想し、デザイン画に表現することを通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果②③に関連）										
	(3)	ファッションデザインの種類や名称を学習することを通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
授業概要	衣服は人間が直接身につけるものであるため、非常に関心が高く、ファッションの個性化が求められる。基礎となるデザインを統計的に習得し、写真やイラストにより視覚的に理解することを目的とした。ファッションデザインの基礎的な知識や豊かで美的なデザイン発想力が養われるよう、デザインの発想法や美的形式原理などについて学ぶ。また、フォーマルスペシャリスト検定準2級の合格を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	レポート課題を実施し、講義内容の理解の程度を評価する。								
		小テスト	10	授業内容の理解の程度を評価する。								
		筆記試験	70	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本フォーマル協会	『フォーマルウェア・ルールブック』				日本フォーマル協会						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	飯塚弘子・万江八重子 共著	『服飾デザイン論』				文化出版局						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①日常的にファッション誌の閲覧やファッションの流行などを意識し（計30時間）、講義内容の理解を深める。また、レポート・筆記試験の準備を行い（計30時間）、理解の定着に努めること。 ②レポートは返却し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	全15回の内容を理解できたか 資格の内容を理解できたか
	学習成果	取得できる資格について理解し、全15回の授業内容を知ることができる。	
	予習復習の内容	ファッションデザインに関心を持ち、ファッション誌など積極的に読むようにすること。	
2回	授業内容	デザインの意義	レポート（デザイン画制作）
	学習成果	デザインの語彙や歴史、創造性などについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	デザインについて理解し、発想ができるようにすること。	
3回	授業内容	デザインの分野	質問を通してデザインの分野を理解できたか
	学習成果	ファッションおよび他業界におけるデザインの分野を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	デザインを利用する業界を理解しておくこと。	
4回	授業内容	デザインの過程	質問を通してデザインの過程が理解できたか
	学習成果	デザインが生み出され、生産され、製品になっていく工程を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	一般的なデザインの過程とファッションの工場生産の流れを理解しておくこと。	
5回	授業内容	服装の意味	質問を通して服装の意味が理解できたか
	学習成果	服装の類語および服の役割について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	専門的な言葉の使い分けができ、服の役割を理解し、説明できるようにしておくこと。	
6回	授業内容	服装の美	質問を通して服装の美が理解できたか
	学習成果	デザイナーおよび服装の美しさについて、その条件を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	服装の美しさとは何か、内容美と形式美の違いについて理解しておくこと。	
7回	授業内容	美的形式原理	質問を通して美的形式原理が理解できたか
	学習成果	服装が美しく見えるテクニックについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	原理の5つのパターンについて、理解し、コーディネートできるようにすること。	
8回	授業内容	点と線のデザイン	質問を通して点と線のデザインを理解できたか
	学習成果	ファッションデザインにおける点と線を利用したデザインの種類と見え方の違いについて理解する。	
	予習復習の内容	点と線のデザインについて理解し、コーディネートの問題解決ができるようにすること。	
9回	授業内容	シルエットとディテール	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	服装全体のシルエットの種類と細かなディテール部分のデザインの種類を知り、説明できる。	
	予習復習の内容	シルエットとディテールの違いとデザインの種類を理解し、説明できるようにしておくこと。	
10回	授業内容	服種と用途	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	フォーマルとカジュアルのデザインおよびTPOに合わせたデザインを知ることができる。	
	予習復習の内容	TPOに合わせた服装を理解し、説明できるようにしておくこと。	
11回	授業内容	アクセサリ	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	ネックレス、帽子、靴や宝石など、デザインの種類を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	アクセサリのデザインの種類を理解し、コーディネートできるようにすること。	
12回	授業内容	素材の効果性	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目に実施
	学習成果	柄やテキスタイルによる見え方の違いについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	テキスタイルについて理解し、説明できるようにしておくこと。	
13回	授業内容	色彩の役割	
	学習成果	色の基礎、感情、配色、流行色について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	色彩の原理について理解し、配色を利用してコーディネートできるようにすること。	
14回	授業内容	体型とタイプ	
	学習成果	人間の体型の種類、人格のタイプ、コーディネートのタイプについて理解し、コーディネートできる。	
	予習復習の内容	人と服の着装、スタイルについて理解し、コーディネートできるようにすること。	
15回	授業内容	服飾デザインにおける演習・まとめ	
	学習成果	全15回のまとめと筆記試験を行い、ファッションデザインの知識を習得しコーディネートできる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理・確認しておくこと。	

科目名	栄養学 A				担当者	梅 津 裕 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		umetsu.yuko@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	からだの仕組みと食物の取り込みについて理解し、その概要を説明できる。										
	②	栄養素の種類とその働きについて理解し、その概要を説明できる。										
	③	からだの働きを支えるエネルギーや栄養摂取の適量について理解し、その概要を説明できる。										
	④	栄養と健康における課題について理解し、改善点を示すことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた栄養学に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識を習得し活用することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	栄養と健康における課題や改善点の把握を通して、社会人として必要な論理的思考を高め課題解決に向けて行動できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	フードコーディネーター資格取得のために必要な栄養学に関する知識の習得を目的とする。近年のように複雑多様化した社会に生きるためには、食物の摂取から生命、健康の維持増進、疾病の予防、治療といった広範囲にわたる栄養学的知識が必要となっている。本授業では栄養学の成り立ち、からだの仕組みと食物の取り込み、栄養素の種類とその働き、非栄養素の栄養効果、からだの働きを支えるエネルギー、栄養摂取の適量等について学び、理解を深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	全講義内容の理解について定期試験期間に筆記試験を行い評価する。								
		レポート										
		小テスト	10	各回の講義内容の理解について学期の途中で小テストを行い評価する。								
		平常点	30	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	日本フードコーディネーター協会編		【新・フードコーディネーター教本2020】						柴田書店			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①フードコーディネーター3級の資格取得に必修。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に4時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。小テストのための準備を行うこと。事後学習として、各回の学習内容とそれに関連する事項を調べノートにまとめること。小テスト及び授業の内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テストは返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより結果のフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、栄養学とフードコーディネーター	ワークシートへの取り組み
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	栄養学の成り立ち	小テスト 7回目授業の後半に2-6回目までの講義内容の理解について小テストを実施する。
	学習成果	栄養学の成り立ちについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、栄養学の成り立ちについて理解を深める。	
3回	授業内容	からだの仕組みと食物の取り込み (1) からだの構成単位、からだの働き	
	学習成果	からだの構成単位、からだの働きについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、からだの構成単位、からだの働きについて理解を深める。	
4回	授業内容	からだの仕組みと食物の取り込み (2) 消化と吸収	
	学習成果	消化と吸収について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、消化と吸収について理解を深める。	
5回	授業内容	栄養素の種類とその働き (1) 熱量素 糖質	
	学習成果	熱量素 糖質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 糖質について理解を深める。	
6回	授業内容	栄養素の種類とその働き (2) 熱量素 脂質	
	学習成果	熱量素 脂質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 脂質について理解を深める。	
7回	授業内容	栄養素の種類とその働き (3) 熱量素 タンパク質	小テスト 12回目授業の後半に7-11回目までの講義内容の理解について小テストを実施する。
	学習成果	熱量素 タンパク質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 タンパク質について理解を深める。	
8回	授業内容	栄養素の種類とその働き (4) 構成素 タンパク質	
	学習成果	構成素 タンパク質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、構成素 タンパク質について理解を深める。	
9回	授業内容	栄養素の種類とその働き (5) 構成素 無機質	
	学習成果	構成素 無機質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、構成素 無機質について理解を深める。	
10回	授業内容	栄養素の種類とその働き (6) 調節素 ビタミン	
	学習成果	調節素 ビタミンについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、調節素 ビタミンについて理解を深める。	
11回	授業内容	栄養素の種類とその働き (7) 調節素 無機質	
	学習成果	調節素 無機質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、調節素 無機質について理解を深める。	
12回	授業内容	非栄養素の栄養効果 食物繊維	定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解について筆記試験を実施する。
	学習成果	非栄養素の栄養効果 食物繊維について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、非栄養素の栄養効果 食物繊維について理解を深める。	
13回	授業内容	からだの働きを支えるエネルギー(1) エネルギー生成とその消費	
	学習成果	エネルギー生成とその消費について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エネルギー生成とその消費について理解を深める。	
14回	授業内容	からだの働きを支えるエネルギー(2) 消費エネルギーの求め方	
	学習成果	消費エネルギーの求め方について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、消費エネルギーの求め方について理解を深める。	
15回	授業内容	栄養摂取の適量	
	学習成果	栄養摂取の適量について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、栄養摂取の適量について理解を深める。	

科目名	ホスピタリティ概論				担当者	今野則幸						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Eメールで行う。konno.noriyuki@seiwa.ac.jp										
専門的 学習成果	①	ホスピタリティの起源・語源・歴史を理解し、概要を説明できる。										
	②	ホスピタリティを活用している施設を調べ、内容を比較できる。										
	③	日常生活の中で必要な人間関係を論じ、ホスピタリティの必要を述べることができる。										
	④	自然環境に対し、ホスピタリティの必要性を述べるができる。										
汎用的 学習成果	(1)	単なる「おもてなし」ではなく、良好な人間関係を築くことができる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	自然環境に必要なホスピタリティもあり、社会生活を営む上で重要なことを挙げることができる。(専門的学習成果①④)										
	(3)	グループワークを通し、具体的なホスピタリティを挙げることができる。(専門的学習成果②③④)										
授業概要	「ホスピタリティ」という言葉を、日本人は「おもてなし」と表現することが多い。しかし、人間関係に留まらず、動植物やその他の自然環境に対してもホスピタリティは必要である。多様で深い本質を持つ「ホスピタリティ」を学び、またグループワークを通じ議論することで、豊かな社会生活を送ることができるようにする。また、自分の考えを述べることで、相手の考えを聴くことで、コミュニケーション力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	15回の講義を通じレポートを作成し、理解度を評価する。								
		グループワーク	30	小グループでのワークを通じ、プレゼンテーションを行い評価する。								
		平常点	10	グループワークや授業への取組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①④により評価を行う。 (3)は専門的学習成果②③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	力石寛夫		『ホスピタリティ』						商業界			
	力石寛夫		『ホスピタリティマインド実践入門』						研究社			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義内容を整理する。そしてグループワークの発表に備え、具体的な内容に基いた自分自身の考えをまとめておく(30時間)。また、日常において、自身の行動及び他者の行動を観察し振り返りをし、より良い社会の構築を考える(30時間)。 ②レポートは後期開講直後に返却し、フィードバックする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	TDRのホスピタリティ	レポート提出
	学習成果	TDRでのホスピタリティ溢れる接客を述べるができる。	
	予習復習の内容	自身が体験したTDRを思い出し、整理しておく。	
2回	授業内容	テーマパーク論	
	学習成果	国内外のテーマパークを比較し、接客の仕方を述べるができる。	
	予習復習の内容	自身が体験したテーマパークでの思い出を整理しておく。	
3回	授業内容	ホスピタリティの起源	
	学習成果	人類の始まりから続くホスピタリティを説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
4回	授業内容	ホスピタリティとサービス	
	学習成果	ホスピタリティとサービスとの概念比較を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
5回	授業内容	ホスピタリティとサービス グループワーク	
	学習成果	グループワークをおこない、自身の考えを挙げるができる。	
	予習復習の内容	自身の考えとグループ各員の考えを整理しておく。	
6回	授業内容	ホスピタリティとサービス グループワーク発表	グループワークへの取り組み
	学習成果	先のグループワークでの意見を、全員の前でプレゼンテーションできる。	
	予習復習の内容	他グループの考えを聴き、自身の意見と比較・検討する。	
7回	授業内容	ホスピタリティマネジメント	
	学習成果	社会生活をおくる上で必要なホスピタリティを述べるができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
8回	授業内容	ホスピタリティマーケティング	
	学習成果	仕事をする上で必要なホスピタリティを述べるができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
9回	授業内容	友人間でのホスピタリティ グループワーク	
	学習成果	グループワークをおこない、自身の考えを挙げるができる。	
	予習復習の内容	自身の考えとグループ各員の考えを整理しておく。	
10回	授業内容	友人間でのホスピタリティ グループワーク発表	グループワークへの取り組み
	学習成果	先のグループワークでの意見を、全員の前でプレゼンテーションできる。	
	予習復習の内容	他グループの考えを聴き、自身の意見と比較・検討する。	
11回	授業内容	ホスピタリティと環境 自然との共生	
	学習成果	自然と人間のとの共生について、意見を述べるができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
12回	授業内容	ホスピタリティと環境 食物との関係	
	学習成果	自然環境に配慮した食物の栽培や摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
13回	授業内容	職場でのホスピタリティ グループワーク	
	学習成果	グループワークをおこない、自身の考えを挙げるができる。	
	予習復習の内容	自身の考えとグループ各員の考えを整理しておく。	
14回	授業内容	職場でのホスピタリティ グループワーク発表	グループワークへの取り組み
	学習成果	先のグループワークでの意見を、全員の前でプレゼンテーションできる。	
	予習復習の内容	他グループの考えを聴き、自身の意見と比較・検討する。	
15回	授業内容	自身の考えるホスピタリティ	レポート提出
	学習成果	講義やグループワークを通して自身のホスピタリティを述べるができる。	
	予習復習の内容	レポートをまとめ提出できる。	

科目名	公務員試験対策講座V (文章理解・文学)			担当者	関根俊二							
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)											
専門的 学習成果	①	現代文を適切に理解し、設問を解くことができる。										
	②	国語のルールを理解し正しく活用できる。										
	③	自分の考えを小論文にまとめることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	論理的な思考力や文章表現能力が身につく活用できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	国家公務員、地方公務員、独立行政法人、JA など、筆記試験において「教養試験(文章読解)」と「小論文」が課される職種への就職を希望する学生を対象にして、過去問等の演習と解説、小論文執筆と添削を行い、公務員試験に対応できる能力を育成する。文章読解は時間の制約のある中での解答で、コツを踏まえた解答が必要であり、これを確認しながら学んでいく。小論文執筆は、まず話題の確認から行うこととする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	80	授業内の解答を小テストとして扱う。10回実施し、各回8%の評価を行う。								
		提出文	20	小論文を2回提出する。各回10%で評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	資格試験研究会編	『新・初級スーパー過去問ゼミ 文章理解 資料解釈』						実務教育出版				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	鶴田秀樹	『公務員試験 独学で合格する人の勉強法』						実務教育出版				
	山下純一	『論文試験の秘伝』						YAC出版				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①新聞記事やテレビ報道などに日常的に触れ、地域や世界の動きをしておくこと。また、授業で紹介する資料も読んでほしい(以上、各回あたり2時間)。授業の復習、小論文執筆の予習などで各回1時間の予習・復習が必要となる。 ②授業での正解状況を報告してもらい、小テストとして扱うので、評価は自己管理できる。提出された小論文は添削の上、すみやかに返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 公務員試験の概要と準備・対策	
	学習成果	公務員試験の概要と準備・対策について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	概説部分に目を通しておく。	
2回	授業内容	文章理解	小テスト①（文章読解）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
3回	授業内容	文章理解	小テスト②（文章読解）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
4回	授業内容	文章理解 漢字の読み	小テスト③（文章読解と漢字の読み）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
5回	授業内容	文章理解 漢字の読み	小テスト④（文章読解と漢字の読み）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	発表の準備を行う。	
6回	授業内容	文章理解 漢字の読み	小テスト⑤（文章読解と漢字の読み）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
7回	授業内容	小論文の理解 テーマの探求	提出物①（小論文）第8回
	学習成果	小論文執筆の方法や社会的話題を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	小論文を執筆する。	
8回	授業内容	小論文の執筆	
	学習成果	社会的話題について小論文が執筆できる。	
	予習復習の内容	小論文推敲	
9回	授業内容	文章理解	小テスト⑥（文章読解）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	発表の準備を行う。	
10回	授業内容	文章理解 文学史	小テスト⑦（文章読解と文学史）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
11回	授業内容	文章理解 文学史	小テスト⑧（文章読解と文学史）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
12回	授業内容	文章理解	小テスト⑨（文章読解）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
13回	授業内容	文章理解	小テスト⑩（文章読解）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
14回	授業内容	小論文の理解 テーマの探求	提出物②（小論文）第15回
	学習成果	小論文執筆の方法や社会的話題を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	小論文を執筆する。	
15回	授業内容	小論文の執筆	
	学習成果	社会的話題について小論文が執筆できる。	
	予習復習の内容	小論文推敲	

科目名	新聞を読む			担当者	川 辺 博						
区 分	選択	2	単位	授業回数 15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数 30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。										
専門的 学習成果	①	新聞を読んで活用するための技術を身につける。									
	②	時事問題に関心を持ち、自分自身に関連づけてとらえ、自分なりの考えが発表できる。									
	③	「ニュース時事能力検定」受験を目指した取り組みができる。									
汎用的 学習成果	(1)	現代社会の課題を認識することで、業務においても私生活においても自立した社会人としての役割を果たすことができる。(専門的学習成果の①②③に関連)									
	(2)	現代社会の課題について深く考察し、立場の異なる相手とも議論できる。(専門的学習成果の②に関連)									
	(3)	現代社会の課題に取り組んで地域社会の活動に貢献できる。(専門的学習成果の②に関連)									
授業概要	新聞は世界を知るための良質のメディアだが、読むには慣れとコツが必要である。この授業では各自が毎週スクラップ・ブックを作り、記事で取り上げられているできごとについて全体で討議することを通して、社会のしくみと現状、問題点についての理解を深める。また新聞記事のようないわゆる「硬い文章」を読むのに慣れ、さらには自分でも書けるように練習する。「ニュース時事能力検定」の参考書・問題集に取り組み、受験を促す。「新聞は難しいから読まない」という人ほど、むしろ歓迎する。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準							
	専門的 学習成果	定期試験									
		レポート									
		提出物	50	授業ごとに指定されたテーマにもとづいてスクラップ・ブックを作り、期末に提出する。							
		小テスト	20	ニュース検定や講義内容についての小テストを実施する。							
		平常点	30	授業時間中におこなうスクラップの発表の内容を評価する。							
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。 (3) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名			
	日本ニュース時事能力 検定協会 (監修)	『2020年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 3・4級対応』						毎日新聞出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名			
	池上彰	『池上彰の新聞勉強術』						文春文庫			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①各自で新聞を用意し、スクラップ・ブックを作成すること。作る際の詳細な注意点は、初回のガイダンスで指示する。授業日以外でも新聞やテレビのニュース番組、ネットのニュース・サイトに親しむ必要がある (毎日数十分程度、1週間で4時間程度)。 ②小テストや提出物は返却し、その際に解説をおこなう。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、スクラップ・ブックの作り方と「ニュース時事能力検定」について	「ニュース検定」の例題への取り組みによって評価
	学習成果	新聞というメディアの特性を理解し、スクラップ・ブックを作成する準備ができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。	
2回	授業内容	新聞の種類	スクラップの発表によって評価
	学習成果	流通範囲や扱う内容に応じて新聞に多くの種類があることを説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。ニュース・サイトを閲覧する。	
3回	授業内容	アナログ・メディア（新聞紙）とデジタル・メディア（ニュース・サイト）の特徴	スクラップの発表によって評価
	学習成果	アナログとデジタルの双方の長所と短所を対比して説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。政治分野の話題についてまとめておく。	
4回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（1）政治	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	政治分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。政治分野の話題を復習する。	
5回	授業内容	一日分の新聞の構成	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞の「面」ごとの特色を説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。見出しの特徴を調べておく。	
6回	授業内容	新聞記事の構造、見出しの役割	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞記事の構造や見出しの役割を説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。経済分野の話題についてまとめておく。	
7回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（2）経済	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	経済分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。経済分野の話題を復習する。	
8回	授業内容	写真、レイアウト、文字の役割	スクラップの発表によって評価
	学習成果	報道写真に込められた意図に留意しながら「読み解く」ことができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。暮らしにかかわる話題についてまとめておく。	
9回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（3）暮らし	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	暮らしにかかわる知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。新聞広告の特徴を調べておく。	
10回	授業内容	新聞広告の特徴	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞という物理メディアならではの広告の表現手法の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題についてまとめておく。	
11回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（4）社会・環境	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	社会・環境の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題を復習する。	
12回	授業内容	新聞を読み比べる（1）一般紙どうしの読み比べ	スクラップの発表によって評価
	学習成果	複数紙の読み比べをとおして、報道と世論形成のかかわりを説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。国際分野の話題についてまとめておく。	
13回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（5）国際	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	国際分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。国際分野の話題を復習する。	
14回	授業内容	新聞を読み比べる（2）「日本経済新聞」を読む	スクラップの発表によって評価
	学習成果	「日本経済新聞」の特徴を理解し、活用できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。新聞の文体の特徴を調べておく。	
15回	授業内容	新聞記事の文体をまねて記事を書く	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞記事風の文章が自分で書ける。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。授業全体を振り返り、まとめる。	

科目名	ライフデザイン総合				担当者	堀 良平 ・ 君島 智子 ・ トウカイリン 東海林 初枝						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp (学籍番号、氏名必須) オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。										
専門的 学習成果	①	ライフデザインがなぜ重要なのかを理解し、その必要性を説明することができる。										
	②	ライフデザインを通して自身の人生を振り返るとともに、今後についても主体的に考えることができる。										
	③	人生における様々な時期を理解し、自分だけではなく他者への理解を示すことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、一人の大人として社会に貢献することができる。 (専門的学習成果①②③)										
	(2)	ライフデザインを通して得た人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、他者と協働することができる。(専門的学習成果①②③)										
	(3)	ライフデザインを通して得た専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展へ積極的に貢献することができる。(専門的学習成果①②③)										
授業概要	ヒトの誕生から老後の暮らしまでそれぞれの段階について学ぶことで、今後予想されるライフイベントを具体的に検討し、より豊かなライフデザインが行えるようにしていく。誕生から現在までは過去の自分を振り返るとともに将来の子育てについて考えるものとし、就職、結婚、老後の生活などを学ぶ中では、将来の自分や、自分自身の家族について考えていくものとする。授業の進め方としては講義形式となるが、事前のワークシートの記入や授業中のグループワーク、事後のレポート提出など積極的に参加することを求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	80	毎回の講義で授業の感想を期日までに振り返りシートで提出するとともに、定期的に記述式のレポートを提出し、その内容を評価する。								
		グループワーク	20	講義内で行う、討議・グループワークにおける発表・参加態度を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により行う。 (2) は専門的学習成果①②③により行う。 (3) は専門的学習成果④により行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
	テキストとなる講義資料、レジュメを配布する											
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①準備学習等履修上の留意点 授業で配布する参考資料を活用し授業を進める。 <事前学習>テーマに沿った内容についてインターネット等を通して研究するとともに、事前に配布するシードがある場合はそれを記述する。(予習:週1時間程度)</p> <p><事後学習>講義内で学習したことについて各自のライフデザインに合わせて振り返る。(復習:週1時間程度)</p> <p>②フィードバックの方法等 提出した各種レポートについては講義時にフィードバックを行う。内容によってはグループワークを通してクラス内での共有を図っていく。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	講義から得たことや今後に生かしていくべきこと、疑問点について振り返りシートを通して提出する。授業内では適宜グループワークを通して、理解の共有を図り、そこでも発言や参加態度なども評価の対象としていく。さらに講義内容によって出される事前・事後課題を提出する。
	学習成果	本講座での学習計画について把握する。	
	予習復習の内容	シラバスを読み、学習内容を確認する。	
2回	授業内容	ヒトの命の始まりから誕生に至る段階（胎生期）の理解	
	学習成果	受精から出生までの巧みさや神秘に触れ、生命の尊重、生命の連続性について感じ取ることができる。	
	予習復習の内容	配布する資料又は視聴する資料に対し、感想をまとめる。	
3回	授業内容	乳児期の理解：人間の育ちと愛着	
	学習成果	生涯発達の視点から、乳児期の重要性を理解する。基本的信頼感の獲得や愛着の形成について理解する。	
	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、授業内容を確認、整理する。	
4回	授業内容	幼児期の理解：非認知能力と幼児期の育ち	
	学習成果	生涯発達の視点から、幼児期の重要性を理解する。非認知能力について理解し、幼児期の発達と遊びの意味を理解する。	
	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、ワークシートに記載する。	
5回	授業内容	学童期の理解：自己効力感と学習のつながり	
	学習成果	生涯発達の視点から、学童期の重要性を理解する。小1プロブレム、9歳の壁等について理解し、自己効力感と学習のつながりを理解する。	
	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、ワークシートに記載する。	
6回	授業内容	青年期～中年期の理解①：アイデンティティの確立	
	学習成果	自分自身の中学・高校時代を振り返りながら、現在の自分について考えることができる。	
	予習復習の内容	ワークシート（中学・高校時代の振り返り）をまとめる。	
7回	授業内容	青年期～中年期の理解②：現在の自分に対する理解	
	学習成果	短大での生活を振り返り、卒業までの目標を掲げることができる。	
	予習復習の内容	自分自身の卒業までの目標や考えをまとめておく。	
8回	授業内容	青年期～中年期の理解③：社会へ出ること（就職、自立）	
	学習成果	卒業後社会に出るにあたり、自立する上でのプランを主体的に考えることができる。	
	予習復習の内容	卒業後の進路について自分なりに考えるとともに、家族などの意見も聞いておく。	
9回	授業内容	青年期～中年期の理解④：人生における選択（結婚、出産、転職）	
	学習成果	人生における様々なライフイベントを理解し、自身のキャリアをより豊かにできる方法を検討できる。	
	予習復習の内容	卒業後の進路について自分なりに考えるとともに、家族などの意見も聞いておく。	
10回	授業内容	青年期～中年期の理解⑤：ライフプランを立ててみる	
	学習成果	青年期～中年期の学習内容を理解し、自身のライフプランを立てることができる。	
	予習復習の内容	ここまでの講義内容を振り返り、自分の今後の人生について考えをまとめておく。	
11回	授業内容	青年期～中年期の理解⑥：現在の社会情勢（政治）	
	学習成果	社会に出る上での現在の政治情勢を理解し、そこに自分のライフデザインを重ね合わせて考えることができる。	
	予習復習の内容	最新の時事を含めた政治問題をインターネットなどを通して把握しておく。	
12回	授業内容	青年期～中年期の理解⑦：現在の社会情勢（経済）	
	学習成果	社会に出る上での現在の経済情勢を理解し、そこに自分のライフデザインを重ね合わせて考えることができる。	
	予習復習の内容	最新の時事を含めた経済問題をインターネットなどを通して把握しておく。	
13回	授業内容	老年期の理解①：老年期の身体面、心理面、社会面の特徴	
	学習成果	加齢、老化による心身や社会的側面の変化の特徴を列挙できる。	
	予習復習の内容	ワークシート（老年期の特徴）をまとめる。	
14回	授業内容	老年期の理解②：高齢者の健康の捉え方	
	学習成果	高齢者の健康が注目されるようになった背景を理解し、サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング等の考え方を説明できる。	
	予習復習の内容	ワークシート（健康長寿に向けての健康）をまとめる。	
15回	授業内容	まとめ、最終レポート作成	学習内容を整理し、レポートとして提出する。
	学習成果	本講座を通して学習したことを整理し、その内容を説明できる。	
	予習復習の内容	ここまでの授業内容を復習する。	